

ございますでしょうか。もしなければ、とりあえず。

■山田委員 これはまた次あるんですか。

■中川座長 ありますよ。何を言っているんですか。

■山田委員 1回と書いてあったからね。

■中川座長 第1回ですよ。やります。

スケジュールは、今、事務局からお話しいただいてもよろしいですか。

■前田室長 スケジュールにつきましては、最後で述べようと考えておりましたけれども、年度内、3月末までには、今日を含めて3回。年内に1回、年を明けてから3月までの間に1回は必要と考えてございまして、いろんな地方自治体の取組みですとか、外国の取組みですとか、企業の取組みですとか、そういった取組みを行われている方にお越しいただいて、御説明いただくことも考えてございまして、本日、資料を提出していただいた委員の方々がおられますけれども、同じように資料を出していただいて、今の取組みについて御説明いただくことも、メンバーの方々をお願いできればと思っております。

■中川座長 来年度はどうなりますか。

■前田室長 来年度も引き続きこの懇談会については、継続してやっていきたいと考えてございます。

■中川座長 そうですか。ですから、しばらくおつき合いいただくこととなりますので、よろしくお願いいたします。

#### 山田邦子さんの活動について

■山田委員 では、せっかくですから、活動について言っておきたいことがあります。

今、新しく、乳がんだけでなく、すべてのがんの人たちや家族を応援する歌をつくっています。私がただでつくりました。いちいちただでと言わなくてもいいんですが、ちょうど私たちのメンバーの中に音楽家もいますので、譜面も起こしてもらって、もうすぐ録音をするんだと思います。来年の夏ぐらいを目標に、うちの芸能人のメンバーが、46人になって、もうすぐ50人になるんですが、その人たちを2人か3人ずつ全国に散らばして、学校単位か企業になるとは思いますけれども、地域地域で練習をして、インターネットなどを通じて、6月のある日、大体決めているんですけども、そこで同時に一斉のせいで、もうちょっと言えば、世界で同時に一斉のせいでその歌を歌ってみようではないかというアイデアが今あって、進めています。かなり具体的になっています。

そうしていくと、この間は病院などでも小さい会をやってみたんですけども、患者さんが集まって、みんなで情報も交換できて、先生から幾ら大丈夫と言われても、同じ病の人同士で大丈夫と言いつたり、具体的に励ましてもらったりすると非常に元気になるんですね。私も元気になりますし、大きい会を考えているので、また何かあれば応援していただければと思います。

■中川座長 それは本当に、官僚の皆さんや東大からはなかなか出ないアイデアですね。その歌はもうできているんですか。

■山田委員 歌はできています。

■中川座長 では、さわりを歌ってください。どうぞ。

■山田委員 ここで歌うんですか。

■中川座長 駄目ですか。

■山田委員

あなたとつなごう その手と手 ♪

一緒に歌おう 大きな声で ♪

あなたの優しさ あなたの笑顔をわかっているよ ありがとう ♪

咲かせよう心に虹の花を あなたが大切だから アイリスの花 ♪

これが1番です。

■中川座長 ありがとうございます。いいですね。

■山田委員 中川先生に乗せられてこういうことになってしまうんですよ。

■中川座長 この歌は議事録でどうするんですかね。お任せしますが、載せたらいいと思いますね。ありがとうございます。

## 最後に

さて、それでは、あと全体を通して、今日これは言っておきたいということがございましたら、お願いします。随分仲良くなって、第1回目らしい懇談会になったと思います。

せっかく文部科学省から来られていますので、先生の教育というか、冒頭申し上げましたけれども、日本人はやはりだんだん死生観が変容してきて、死ぬことを考えないようになってきて、学校の先生もやはり日本人の一員ですから、きっとそうなのでしょう。そうすると、確かに教科書には書いてあるんだけど、先生方がそれをもう少し深くがんのことを知った上で、生徒に教えられるかなと思います。それはマスコミにも言えるんですよ。マスコミの方にも、やはりもっとがんのことをわかっていた上で記事を書いてほしい。そういう点では、学校の先生方の研修のありかたを議論する、そういう取組みも必要ではないかなと思っています。

それでは、少しまだ10分ほど時間がありますね。せっかくの機会ですから、何かございますか。

■若尾委員 今、中川先生から、今後のやり方等でいろいろ精力的な事例の勉強会をしたり、あるいは本当に芸能人の方で御協力いただける方に御協力いただいたり、具体的にいろんなことを考えていくというお話があったんですけども、考えたものを実行に移すことは、どのような形で実現されるんですか。我々が懇談会でまとめたものを実際に来年度以降、厚生労働省の事業